

「日々の理科」(第 2556 号) 2021, -7, 13  
「クロームブックを活用した台風模型(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

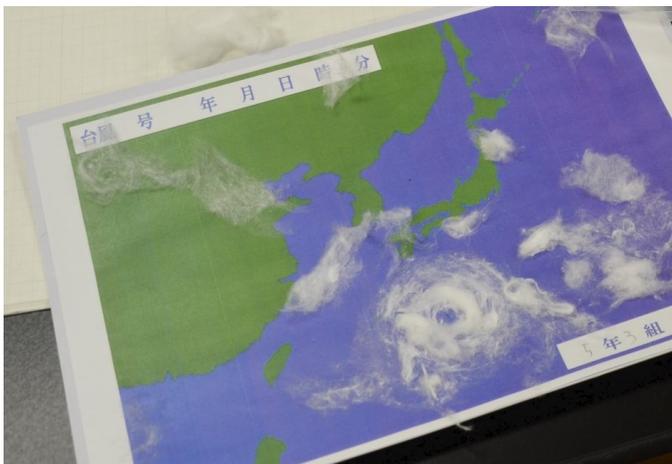
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「クロームブック」は、さまざまな形態で活用できる。インターネット検索で、知りたい情報や役立つ画像を見られるだけでなく、もちろんカメラやビデオとしても使える。



子どもたちの中には、製作途中の作品を撮影する者もいた。これは良い使用方法の一つだろう。自分の「学びの履歴」を画像で残すことは、良い試みである。私は他の実験---たとえば流水実験や、ふりこの実験---などでも、画像(静止画)や映像(動画)を、子ども自らが残すというのも、こうした端末の活用方法の一つだと感じた。



作り始めて、およそ30~40分でおおよそ完成する。この子どもの作品は、台風の位置、渦、目などがよく表現されている。台風以外の雲も適所に配置され、遠くから見ると、本物の衛星画像のように見える。



このように台紙を反らせて撮影すると、「宇宙から見た台風」のように撮れる。この方法は意外と流行っていた。



最後に「台風博覧会」---略して「台博」を開催した。自分が作った台風模型と、元になったクロームブックの画像を並べて展示するのである。



自分の作品だけでなく、仲間の作品も見ることによって、台風の特徴や、作り方の工夫などを学び合えたように思う。なかなか楽しい活動だった。